

ヨーロッパ研修や留学生から五感を使って考える グローバルヘルスー長崎大学医学部保健学科ー



長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
保健学専攻公衆衛生看護学分野 教授

大西 眞由美 (おおにし まゆみ)

看護師・保健師、Master of Public Health、博士（医学）。
JICA長期派遣専門家等を経て、2008年より現職。

国際保健に関する活動

長崎大学には、熱帯医学研究所や熱帯医学・グローバルヘルス研究科があり、グローバルヘルス／国際保健と言えばこれらをイメージされる方々がほとんどだと思います。筆者が所属しているのは、学士課程の教育については医学部保健学科看護学専攻、修士課程の教育については医歯薬学総合研究科保健学専攻公衆衛生看護学分野で、主として看護学教育に携わっています。保健学科には、看護学専攻の他に、理学療法学専攻と作業療法学専攻があり、3専攻共修科目や医学科との共修科目もあります。

学士課程の教育では、1年次に「グローバル化と健康」という科目で、人口移動と健康の関連や、様々な低中所得

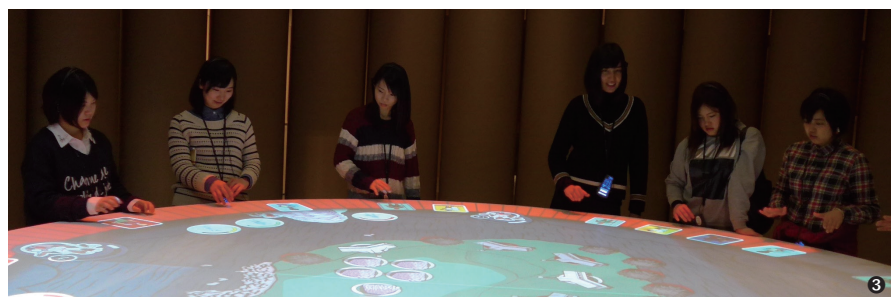
国での国際協力経験がある教員からフィールド活動等について、修士課程では「グローバルヘルス特論」という科目で、世界の様々な健康課題について、いずれも英語で授業を受けます。

保健学科では、米国ジョージタウン大学グローバルヘルス専攻（学士課程）の4年生（以下、GU生）の海外研修を受け入れています。このプログラムは、GU生が様々な国・地域に派遣され、秋学期（15週間）を過ごし、それぞれの国・地域の文化や環境について、また保健医療システムについて学ぶもので、保健学科では2023年度は2人、2024年度は3人のGU生を受け入れました。保健学科学生らはチューターとしてGU生の長崎での生活や学習をサポートします。チューター学生は一定時間数以上の

参加によって「国際保健学演習Ⅰ」（選択科目）の単位履修が可能となります。

特徴、どんなことが学べるか

保健学科では、その他に、「ヨーロッパ保健学研修」を実施しています。これは、参加学生の希望と受入機関の状況により、英国、オランダ、スイス、フィンランドの4ヶ国中2ヶ国を選び、プログラムを調整しています。例えば、英国ではNational Health Service（NHS）による保健医療サービス供給体制と多職種連携（Physician Associate、看護職、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカー等）、メンタルヘルスに課題を持つ人たちのためのリカバリーカレッジ、知的障がい児・者の支援を行っているMENCAP＊での研修を通じて、社会経



① オランダ Buurtzorg（在宅訪問ケア）

③ スイス 国際赤十字博物館

② スイス WHO

④ スイス 国連ヨーロッパ本部



⑤ 英国 Children's center (レクチャー)



⑥ 英国 NHS病院 (St. Mary's Hospital)



⑦ 英国 ナイチンゲール博物館



⑧ フィンランド Neuvolaクリニック

経済的脆弱性を抱える人々や多様なニーズを持つ人々への支援およびアドボカシー活動について学びます。オランダでは、安楽死に関する法制度と今日的課題について、地域開業助産師による自宅分娩や産褥看護師の役割・機能について学びます。これらのプログラムは、筆者や現地コーディネーターのネットワーク等を通じて調整しています。

参加学生は、一定の基準を満たすことで、「国際保健学演習Ⅱ（看護学専攻）」または「国際保健学実習（理学・作業療法学専攻）」（いずれも選択科目）の単位履修が可能となっています。参加費用は、長崎大学あるいは保健学科後援会からの助成金があるものの、基本的には参加学生の私費です。

COVID-19 感染流行下ではこの研修を中止していました。2023 年度は再開を試みようとしましたが、渡航費や現地宿泊費の高騰により、参加を希望していても費用を私費で負担することが困難な学生が多く、実施を断念しました。2024 年度も引き続き渡航費や現地宿泊費の高騰は続いていましたが、学生からの希望もあり、実施することにしました。

2025 年 2 月 26 日ー 3 月 9 日まで、看護学専攻 5 人、理学療法学専攻 1 人、

作業療法学専攻 1 人の参加があり、英国とオランダを訪問しました。日本とは異なる文化や価値観の中で、保健医療サービスの提供体制も異なり、様々な刺激を受けると共に、日本の良さにも気づく経験となったようです。研修の詳細については、保健学科ホームページ「国際交流」をご参照ください。

若い人へのメッセージ

長崎大学には、学生の部活として「熱帯医学研究会」があり、低中所得国での保健医療について関心が高い学生は、研究会を通してフィールド研修に出かけたりしています。一方、グローバルヘルス／国際保健は低中所得国に限定したものではなく、またボーダレスな課題でもありますし、看護学あるいは理学・作業療法学専攻の学生達の中には OECD 諸国の保健医療に関心が高い者もいます。このような背景から、保健学科では、「熱帯医学」以外の海外経験や国際交流が可能となるようなプログラムを企画することで、長崎大学全体として学生の多様なニーズに対応できるようにしています。

日本国内においても社会的脆弱性を抱えた人々へのアプローチや在留外国人への保健医療サービス提供の課題など、

ボーダレスな課題が山積しています。グローバルヘルス／国際保健がカバーする範囲・内容も益々多様化することが考えられます。学生時代に価値観を一元化しないものの見方・考え方や批判的思考力を高めるような経験、そして自分自身の五感で学ぶ経験を沢山して、地球市民としての能力を強化してほしいと思います。

*MENCAP は、Learning Disability の当事者（知的障がい児・者）とその家族やケアラーへの支援を行っている英国の団体です。学校で、職場で、地域社会で、知的障がい児・者の教育、健康、就労、住居、人権等の様々なニーズに基づいた支援やアドボカシー活動を行っています。

「国際交流」に関するこれまでの実績は、以下の URL または QR コードをご参照ください。

<https://www.am.nagasaki-u.ac.jp/kouiki-kango/international/>

